

橋梁建設工事における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	17~ 18	土間プロペラを歩道部から車道部に2人で移動しようとした時に、ハンドル部分を持っていた被災者がバランスを崩して、鉄筋上に落下した。	80	416	1	—
2017	1	11~ 12	除雪作業を終え、昼食をとるために詰所へ戻る途中、道路で滑って臀部を打ち被災した。	59	417	2	10 ~ 29
2017	1	14~ 15	工事におけるA3椅台型枠のPコン撤去作業の際、立馬（H=600）を用い作業をしていたが工具（Sバール）が必要となり、取るために一旦立馬から降りようとしてバランスを崩し転落し、転倒して左足を強打した。	61	371	19	—
2017	2	16~17	4tユニック車にて走行中、スリップして対向車線にはみ出して路外に逸脱し道路標識の支柱に衝突し横転した。現場は直線道路でブラックアイスバーン状態であった。なお、被災労働者は助手席に乗っており、運転は同僚が行っていた。	71	221	17	1~ 9
2017	2	14~15	主桁定着部（C4）のウォータージェット研り作業時に研りガラが養生内に溜まり、その中での作業だった為足元が悪くガラを踏み外し、施工中に転倒し、ウォータージェットが暴れ、そのウォータージェットにより被災した。（ウォータージェットは手を離すと止まる構造になっているが、水が完全に止まるまでに1~2秒かかる。そ	27	169	6	—

			の1～2秒の間に被災した。) 救急搬送後、直ちに手術を行い全治2週間程度の診断。その後は自宅療養、通院での治療およびリハビリの見通し。				
2017	3	11~12	鉄筋コンクリートの橋台を作る工事現場で橋台上部（地上約15m）の壁の鉄筋を組立作業中に、次の作業の段取りを行うため、内部足場から対面の足場へ移動するとき、外周の足場通路を移動せず、近道をし不安定な鉄筋の上を移動中、横筋に足を掛けたところ、横筋がはずれ体勢を崩し転倒した。その際、左大腿部に縦筋Φ16が刺さった。	50	521	3	50 ～ 99
2017	3	10~11	目地復旧工の目地はつり作業において、右足を地面岩場に掛けた際に足を滑らせ、バランスを崩し転倒し、岩場で陰囊を打ち腫れて裂傷した。	47	711	2	10 ～ 29
2017	4	10～ 11	被災者がボーリングマシンを相方と移動作業中、油圧シリンダーをにぎり、油圧レバー操作を行った時、油圧シリンダーに挟まれ指を被災した。	53	143	7	1～ 9
2017	4	10～ 11	会社資材置場にて、片付け作業中に重ねていた合板の上で足を滑らせて横向きに転倒し、右側の腕と足を打撲した。	67	522	2	30 ～ 49
2017	5	21～ 22	4t平ボディ車の荷台に自分の荷物（着衣等）を置いてあり荷台に上がりそれを降ろした後、自分も降りようとしたところ、バランスを崩して怪我をした。	38	221	3	30 ～ 49
2017	5	16～ 17	道路改良工事の現場にて、バックホウの排土板に足をかけて乗ろうとした際に滑って地面に転倒し、右肩を負傷した。	72	142	2	10 ～ 29
2017	5	13～ 14	耐震補強工事（その5）の現場において、P28とP27の間に仮置きしていた鉄筋（D35、D38、L7m）を8本結束し、10tラフタークレーンにて吊り込み、P28へ移送している際、1本の鉄筋が斜めにずれているのに気づき、吊ったまま直そうとしたところ、鉄筋に左薬指の	44	372	7	1～ 9

			先端を挟まれ挫創した。				
2017	6	8～9	事務所2階より階段を下りている時に足元が滑って、足首を捻ったまま一段落ち、左足踵を骨折した。	48	413	1	1～ 9
2017	7	16～17	両手にテープとクロスロットを持ち、少し傾斜のある通路を通行しているとき、バランスを崩して転倒し、右大腿部を打撲した。自力で立ち上がることができなかった。病院の診察の結果、右大腿骨頸部骨折と診断された。原因としては、急いでいて周囲を気にならなかった、通路に石コロがあり、滑り易い状態であった、左膝が痛くて踏ん張れなかった、両手に物を持ったため手を使えなかったことなどが考えられる。	39	417	2	100 ～ 299
2017	7	14～15	橋脚足場上で、上部にある吊足場の一時的な開口部を復旧する作業中、上部作業員が準備した一本の足場板結束用の番線を引っ張ったところ、番線の一部が上部足場に緩衝し跳ね左眼球にあたり、損傷した。	60	521	8	10 ～ 29
2017	7	15～16	第一高架橋足場内で剥離剤塗布作業中、板張防護足場内の中段足場にて負傷した。	45	519	12	10 ～ 29
2017	9	11～12	倉庫内において、元請工事現場で使用する道具を片付けていたところ、足元に置いてあった道具につまずき転んで左胸を打った。	47	416	2	—
2017	9	9～10	吊り足場の解体作業場所で、SKパネルを使用した吊り足場を三人一組で床面パネルを取り外す作業を行っていた。被災者は自分の安全帯のフックを前方の吊りチェーン金具から取り外し忘れていた事に気づき、手を伸ばして取り外したが、この時あわてていたため2丁掛けのもう一方のフックを後ろの吊りチェーン金具に掛ける事を忘れていた。中央の作業者は外したパネルを床面に引き入れる為に、被災者方向にパネルを押し向きを変えようとしたが、被災者の位置を確認していなかった為、被災者の腰に当たりバランスを崩して足場床面から（約3mの高さ）橋下の法面ブロック部に墜落した。	20	411	1	1～ 9

2017	10	11～ 12	被災者はコンクリート打設足場の階段から下りようとした際、バランスを崩し階段から飛び降り、回転して寝そべるように橋面コンクリート上に転倒した。	68	413	1	10 ～ 29
2017	10	16～ 17	橋梁災害復旧工事現場にてA2橋台仮締切内（高さ0.9m）での捨石投入、敷均・水中ポンプ（2インチ）設置の作業を行い、他作業員の作業終了の声とともに仮締切内から上がった際に、鉄骨製切梁（高さ1.7m）に頭部を強打し、そのまま仮締切内に転落、負傷したものの。	67	412	3	30 ～ 49
2017	10	16～ 17	吊足場を撤去作業中、作業員同士が交差した際、安全帯のフックを外し吊足場上から吊りチェーンを投げた時、体にチェーンが引っ掛かり転落した。	20	411	1	10 ～ 29
2017	10	0～1	A2橋台下り線側の側道を規制し、化粧板（長さ約6m幅0.9m重さ約400kg）の撤去作業中橋台に立ち、レバーブロックで化粧板を降下していた際、橋台側面にあるコンクリート壁に化粧板が接触し、降下の障害となった。レバーブロックが吊元から外れ化粧板が落下し胸部に接触した後、大腿部上に落下した。	42	361	4	10 ～ 29
2017	10	0～1	A2橋台下り線側の側道を規制し、化粧板（長さ約6m幅0.9m重さ約400kg）の撤去作業中ローリングタワ上に立ち、レバーブロックで化粧板を降下していた際、橋台側面にあるコンクリート壁に化粧板が接触し、降下の障害となった。レバーブロックが吊元から外れ化粧板が落下するのを見て逃げた時、右足を捻り損傷した。	24	921	19	1～ 9
2017	10	14～ 15	メタルロード工事を施工中、50tクローラクレーンでグウンザホールハンマとリーダーを吊り込み削孔位置にセットする際クレーン本体が転倒し約6m下に落下した。下部の削孔口付近にて作業中の被災者にクレーンが直撃し死亡した。詳細については現在調査中。	27	143	1	1～ 9
2017	10	14～ 15	工区道路改良工事の現場にて50tクローラクレーンにリーダーとハンマーを設置し削孔位置にセット中クレーン本体が落下し、クレーンのオペレーターが負傷した。詳細については現在調査中。	44	143	2	10 ～ 29

2017	11	13～ 14	吊り足場解体作業中に、安全帯を掛け直す際、足場板を踏み外してしまい3m下へ落下した。	32	411	1	10 ～ 29
2017	11	16～ 17	当日、クレーン設置個所の盛土作業であり、盛土材の敷均しを行っていた。作業中のバックホーが前進したため、当該作業員がバックホーの後方に立ち入り敷均し作業を開始した。その直後バックホーが後退するのを確認したため、誘導員は避難合図を行ったが間に合わずバックホー右後方と接触し転倒した。痛みを訴えたため、直ちに病院に搬送した。診察の結果、右足首の骨折と診断された。	65	142	6	10 ～ 29
2017	12	0～1	コンクリートの養生状況を1人で確認中に張出足場上の開口部から落下したものと推測される。墜落の原因としては、張出足場を覗きこんだ時に強風でシートが巻き上がり、つられて足場上に落ちたが、落ちた場所が開口部であったこと、また、高欄鉄筋をまたいで足場上に渡った場所が開口部であったことが考えられる。なお、夜の時間帯で周りは暗く、照明の陰になり足元が十分確認できない状況であった。	58	414	1	10 ～ 29
2017	12	13～14	停車していたダンプが徐々に坂を下り、前進してきたユンボとの間に挟まれた。	50	142	7	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html